

自治体名：兵庫県高砂市

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：高砂市立鹿島中学校

ご記入者：大塚 章子

ご役職：教諭

【設問】

① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

高砂市では、本年度の教育目標の一つに『ICTを効果的に活用』した教育を掲げています。本校でも子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解にこれまで以上に努めるとともに、ICT 機器を活用して、子ども一人一人の学習進度に応じた工夫を行うことを目指しています。そのために「すべての子どもが学習に参加できる協働的な授業」を実践することを目指し、それらを効果的に行うための ICT 活用を推進しています。具体的には自分で調べて考えをまとめたり、他者と話し合って答えを見つけたりする探求的な活動を取り入れることで、主体的・対話的で深い学びの実現が図るよう取り組みを進めています。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。

（1,500文字以内）

本校では学校全体の取り組みとして、年に1回協働学習を取り入れた授業を公開し、互いに見学し合っています。協働学習とICTは親和性が高く、学習を促進する手段として取り入れる教員が増えるきっかけとなりました。

そのような授業実践として私はミライシードのオクリンクを使用して既習の文法を使った英作文作成をさせました。その後にグループで各個人のカードについて話し合いをし、クラス全体で電子黒板に写したカードについてグループ代表がスピーチを行い、質問をし合う活動を行いました。

また個別進度学習の実践として、Google Formsで作成した単語テストを複数用意し、合格するごとに自分のペースで進めるようにしました。しかし取組を進めるとともに誰がどこまで進んでいるのか把握することが困難になり、オクリンクで自分の合格したカードを提出させることで進捗を一覧で把握できるようにしました。またこの単語テストの練習としてクイズアプリである Kahoot!も活用し、自宅での練習を楽しみながら自発的に行うことが出来るようにしました。

取組を進める中で発生した課題としてはタブレットのインターネット接続トラブル、設定トラブル、ネットモラルに関する課題、ネット利用のルール作りの課題が発生しました。それらは想定内の物もあれば想定外の物もあり、その対応に迫られましたが GIGA スクール構想から3年経過すると概ねの課題が出そろってきたように感じます。そのため教員が想定できる範囲が広がり、授業中に想定されるトラブルは概ね対応可能な状況になりました。

③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000 文字以内)

ICT を活用することで 1 番の魅力はいつでもどこでも働くことができるようになったことです。個人情報に配慮した上で、学校内であれば職員室以外でも作業をすすめることができるようになりました。そして授業の中では紙のやりとりである配布、回収、返却の行程が圧倒的に減りました。そして何より見栄えの良い制作物を作成可能になったこと、添削の工程にかかる時間が短縮されたことです。

今までの英語の授業では、生徒に自己表現させる項目について添削の手間を考えるとさせにくい部分がありましたが、この根本的な英語の面白さでもある自己表現の部分をオクリンクを使うことで簡単に、手軽に、視覚的にわかりやすく作ることができるようになりました。

何よりも学年が上がるにつれて生徒は自分のことや考えを英語で発信する楽しさを知るようになりますが、今までの ICT 機器を利用しない状況ではその機会を時間的な理由からなかなか持つことができませんでした。現在は簡易的なプレゼンツールとしてオクリンクが活躍しています。オクリンクは文章だけでなく、絵や写真を入れることができ、操作も複雑でないことから 15 分ほどでテーマに沿った英作文を視覚的にわかりやすくすることができるようになりました。そして写真や絵を入れデザイン性を上げることで視覚的に良くなるだけでなく、本質である英語の表現自体も相手に伝わる表現にしようと生徒が意欲的に取り組むことができるようになりました。さらにその制作物の評価に関しても、英語科教員と ALT がともに評価をしようと思うと、今までは ALT との TT の授業に合わせて、授業を計画する必要がありました。しかしオクリンクを導入することで文法事項の確認などは事前に生徒が提出していたものを ALT の勤務日に添削をしてもらい、返却するということもできるようになりました。ALT との授業調整の面でもオクリンクは役立っています。

そして教師側がいつでもどこでも添削できるようになっただけでなく、生徒もいつでもどこでもできる様になるため、生徒個人個人が満足できるところまで練習した教科書の音読を録音し、オクリンクのカードに入れて提出させることで生徒自身も何度でもやり直し、満足いくものを出せるため自信につながった様子が見られました。各々が満足のいく状態で提出するため、その完成度も上がり、音読一つを取っても能力の向上を実感することができました。

(3-2) ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

こちらの文章を消して、記入をお願いします。

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1 つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000 文字以内)

ミライシード/オクリンクの英語の授業内での活用事例 4 つとドリルパークの特別支援学級内での活用事例を 1 つ挙げていきます。

- ① 英語の授業での代表的な活用例として③にも記させていただいた『指定した文法事項や条件を満たす英作文に写真を足して提出させる自己表現』があります。例えば受け身の表現を勉強した時に「有名店に何でもいいので自分の商品を売り込む英作文」を 3 文作成し、関連する写真も合わせて提示させました。そして個人での作業を行った後でペアや班での文法上のアドバイスをし合い、お互いに質問とその答えを考えさせました。最後にグループ内で最も良い製品を選び、プレゼンを行いました。他の班からは質問を受け付け応答することで、スピーキング力向上も目指しました。そして最終的には ALT が最も良いと思った商品を選んでもらいました。
- ② 次にオクリンクの『音声録画機能を活用した音読を提出』があります。授業の時間内で個別の発音指導は行にくいものです。しかしながらこの録音機能を用いることで、何回も聞き直すこともでき、より公平な評価へと導くことができました。またこれを行うことによって個別の発音アドバイスが可能になり、ALT も交えて苦手な部分の発音に取り組み直すことができました。
- ③ そして単語テストでは『個別進度学習管理するためのオクリンクのカード提出』をさせています。GoogleForms を用いた単語テストですが、誰がどこまで進んでいるかをこれらのカード提出で一目瞭然となりました。カード自身は「1 ~ 2 5」のように数字を打つだけなので簡単に作成でき、生徒も合格ラインまで行くことができたならその数値のカードを提出するだけなので簡単にすることができます。またオクリンクのカードに単語テストのリンクを一覧にして貼ることで、画面をあっちこっちに移動することなく進めることが出来るようにし、生徒の負担を減らしました。生徒は個人のペースでその日の目標を定め、何度も自己調整することができるため、英語を苦手とする生徒も前向きに取り組むことができていました。そしてその単語テストの進度だけでなく、何度も取り組む粘り強さも評価の対象とすることができました。
- ④ 使用できる単元は限られますが、『位置を表す前置詞や道案内の表現のリスニング教材』としてオクリンクを活用しました。生徒は教師から渡されたカード内の動物などの位置を聞き取った内容通りに動かし、正しい位置に動かすことができたか確認しました。多くの生徒たちは書くことよりもリスニングを得意していますが、前置詞や道案内の表現を本当に理解しているか個人が確認する手法の一つとして行うことで生徒自身の振り返りにもなりました。
- ⑤ ドリルパークを活用した事例としては私が担任をしている知的の特別支援学級での事例があります。ドリルパークは当該学年の問題だけでなく、下学年の問題をすることができるため学びの習得にバラツキが生じてしまいがちな『特別支援学級の生徒にも個に応じた問題に取り組ませることが可能』です。またポイントを貯めるというゲーム性も相まって意欲を掻き立てるために繰り返し挑戦し取り組むことができました。中学校の現場として複数の小学校教材を用意することはなかなか難しい側面があります。また生徒数が多くなるにつれ、個別で教材を準備することが負担になっていました。しかしドリルパークには多種多様な問題が含まれているために、その子が苦手とする問題やできる問題、少しの支援で理解できる問題など複数教科に対する学習面での生徒理解には欠かせないツールとなりました。

